

## 3Tier構成の仮想化基盤の運用・保守が抱える課題を一掃し、 グループ企業のDXを支えるIT基盤としてHCIを選択

業種：IT サービス

ベニックスソリューション様は、川崎重工業グループのIT基盤・ITサービスを支える企業です。2015年には仮想化基盤「K-Hosting2」を構築し、グループ各社に提供してきました。ただし、3Tier構成が持つ運用保守の煩雑さが問題となり、機器更改のタイミングで次世代仮想化基盤として富士通のHCI「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Nutanix Enterprise Cloud」（以下、PRIMEFLEX for Nutanix）への刷新を行いました。

### ソリューション

垂直統合型 仮想化基盤（ハイパーコンバージドインフラストラクチャー：HCI）  
FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Nutanix Enterprise Cloud

#### 課題

- 3Tier構成による運用・保守の煩雑さとコスト増大
- 機器ごとに異なるライフサイクルの管理
- 異なる機器・ソフトウェアの混在により時間がかかる人材教育

#### 効果

- HCIに変更することによる運用・保守の手間とコストを削減
- HCIに機器を集約することでシンプルになったライフサイクル管理
- 運用作業メンバーが習熟するまでの時間短縮



左より ベニックスソリューション株式会社 デジタル基盤本部 基盤サービス設計部 クラウドサービス設計グループ グループ長 梶木 俊孝氏、浦部 峻紀氏、(兼)ワークスペース設計グループ 主事 福田 慎氏

### 導入の背景

#### 川崎重工業グループを支えるホスティングサービスが抱えていた運用・保守の課題

ベニックスソリューション様は、2001年、川崎重工業のIT部門が独立して設立されました。その役割は、川崎重工業グループ各社にIT基盤・ITサービスを提供することです。インターネットやメール、グループウェア、会計や人事などの共通システムはもちろん、最近ではデジタル・トランスフォーメーション(DX)の取り

組みを支えるため、グループ会社のAIやIoTなどを活用したシステムの開発支援にも力を入れています。

同社の基盤サービス設計部は、中でも最も基本となるインフラ基盤を提供する部門です。2009年からWindows ServerのHyper-Vをベースとする仮想化基盤「K-Hosting」を構築して提供を開始。2015年にはVMwareのシステムで構築された「K-Hosting2」へと進化させて、グループ各社のITシステムを支えてきましたが、3Tier構成の環境にはいくつかの課題もあったと、デジタル基盤本部 基盤サービス設計部 クラウドサービス設計グループの浦部 峻紀氏は次のように説明します。

「ハードウェア面ではサーバ、ネットワーク、ストレージといった機器が、ソフトウェア面では仮想環境の管理、ストレージの管理、バックアップのツールがそれぞれ分かれていたため、全体の運用・保守が非常に煩雑になっていました」(浦部氏)

たとえば、特定の機器やソフトウェアだけをバージョンアップすると、バックアップツールが新しいバージョンに対応していないためバックアップがとれないといった問題も発生していたといいます。

また、浦部氏は「機器やソフトウェアがバラバラのため、運用を担当するエンジニアが熟練者になるまでも長い時間を要していました」と、人材教育面での課題も指摘します。

## 導入のポイント

### 「K-Hosting2」を支えた実績とサポート力、国産メーカーとしての信頼と故障率の低さを高く評価

「K-Hosting2」の運用が始まって約6年が経過し、ハードウェア更改のタイミングとなったことで、同社は新しいインフラの検討を開始。その中で注目したのが、ハイパーコンバインドインフラストラクチャー (HCI) でした。

デジタル基盤本部 基盤サービス設計部 クラウドサービス設計グループ (兼) ワークスペース設計グループ 主事 福田 慎氏は、「サーバ、ストレージ、スイッチを1つの機器に集約することで運用・保守がシンプルになり、運用メンバーが熟練者になる期間も短縮できると考えました」と説明します。

数ある HCI ソリューションの中から、実機を用意してさまざまな項目でテストを繰り返し、最終的に選択されたのが富士通の PRIMEFLEX for Nutanix でした。

同社が PRIMEFLEX を選択した理由は、他にもありました。じつは、2015年に実施した「K-Hosting」から「K-Hosting2」への仮想化基盤の移行では、富士通が全面的な支援を行いました。

「K-Hosting2」ではすべての機器が富士通製品で統一されていますが、これまでサーバに障害が発生した記憶はありません。その信頼感があったことで、Nutanix という新しいソリューションも安心して導入できました」(福田氏)

川崎重工業グループは鉄道や航空・宇宙、エネルギーなどの事業も展開しています。それを支える IT インフラは「信頼できる国産メーカーの製品」であることは重要な条件です。PRIMEFLEX が、その条件を満たしていたのは、いうまでもありません。

## 導入のプロセス

### 導入・構築は非常にスムーズ、仮想マシンの移行ツール「Nutanix Move」にも期待

製品検討は2019年からスタートし、2020年に実機を使った検証をへて3台の PRIMEFLEX の導入が決定しました。正式に稼働を開始したのは2022年4月からです。浦部氏は「半導体不足や世界情勢の変化による若干の遅れはありましたが、富士通の支援もあって導入・構築は非常にスムーズでした」と振り返ります。

なお、旧環境で稼働している仮想マシンの移行はこれからですが、その際、活躍が期待されているのが「Nutanix Move」です。これは、仮想マシンを1クリックで Nutanix 環境に移行できる移行ツールです。浦部氏は「現在、Nutanix Move を使って移行の検証を行っていますが、非常に優秀かつ高速なので、工数もそれほどかからないと思います」と述べます。

## 富士通コンタクトライン (総合窓口) 0120-933-200

受付時間 9:00 ~ 12:00 および 13:00 ~ 17:30 (土・日・祝日、当社指定の休業日を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

## 導入のメリットと今後の展開

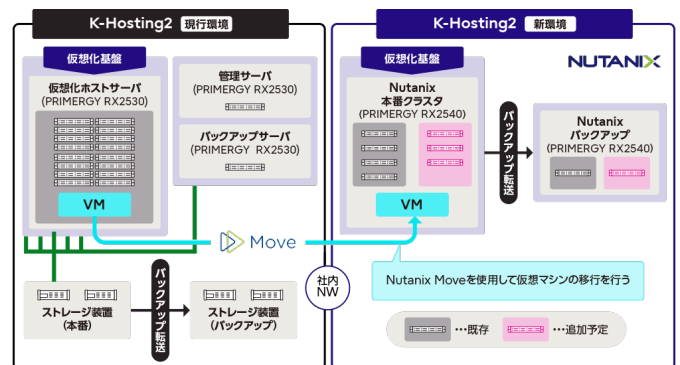
### 年間運用工数の約半分が削減できると試算

まだ仮想マシンの移行が完了していないため、PRIMEFLEX の成果が出るのはこれからです。ただし浦部氏は、年間の運用工数をほぼ半減できそうだと次のように説明します。

「管理対象の機器が1つに集約されたことで、ライフサイクル管理が容易になり、考慮すべき周辺機器の種類も減ります。さらに、運用作業メンバーが習熟するまでの期間も短縮できます。これらを総合すると、年間の運用工数の削減率は約50%になると試算しています」(浦部氏)

PRIMEFLEX によって刷新された新しい仮想化基盤の役割について、デジタル基盤本部 基盤サービス設計部 クラウドサービス設計グループ グループ長 梶木 俊孝氏は次のように説明します。

「グループ企業の DX の取り組みでは、クラウド活用のニーズも高まっています。ただし、すべてがクラウドになるわけではありません。高度な情報セキュリティが必要な事業も展開している以上、必ずオンプレミスのシステムは必要です。その意味でも、PRIMEFLEX によるオンプレミス環境の強化は非常に重要であり、今後はクラウドとオンプレミスの両方を柔軟に活用できる環境を整備したいと考えています」(梶木氏)



## お客様プロフィール

### ベニックスソリューション株式会社

所在地 兵庫県明石市川崎町1番1号 川崎重工業 (株) 明石工場内

代表者 代表取締役社長 二之湯 秀幸

設立 2001年2月9日

従業員数 346人(2022年6月1日現在)

事業内容 ソリューション、ソフトウェアの販売、導入支援  
川崎重工業グループ情報基盤の運用サービス

URL <https://www.benic.co.jp/>

● 本事例中に記載の肩書きや数値、固有名称等は取材日現在のものです。